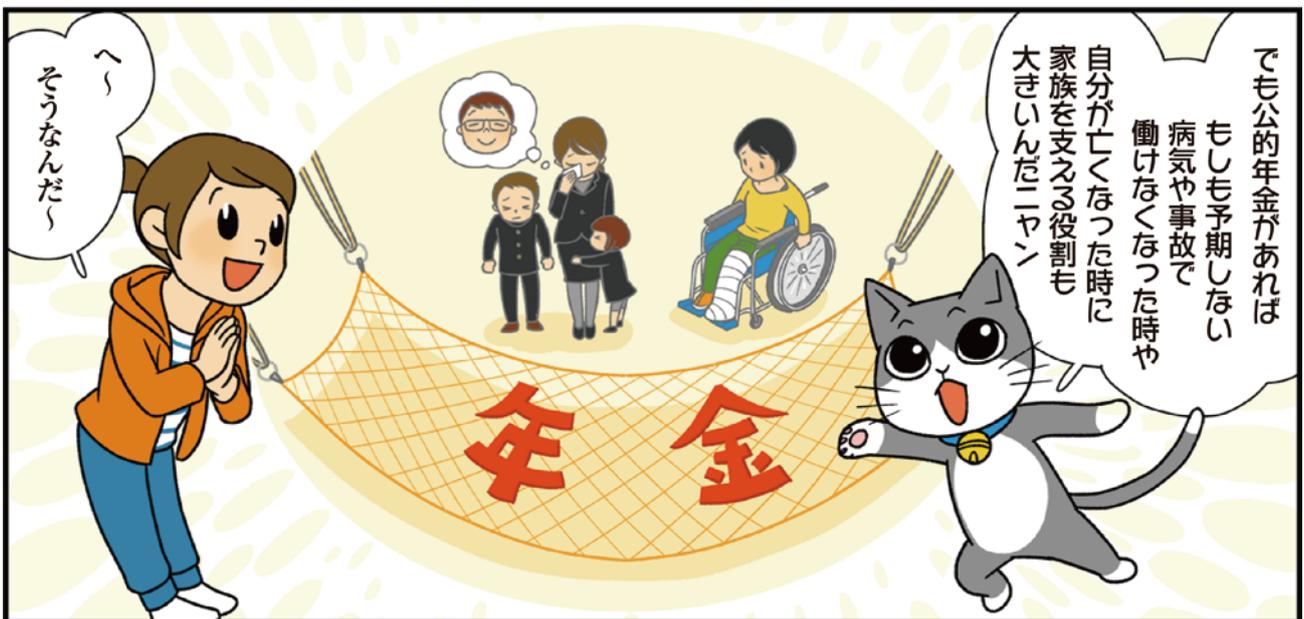
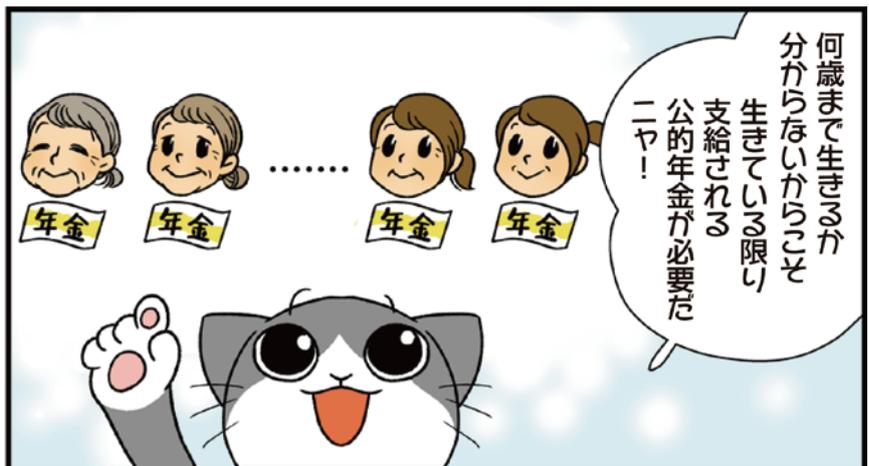
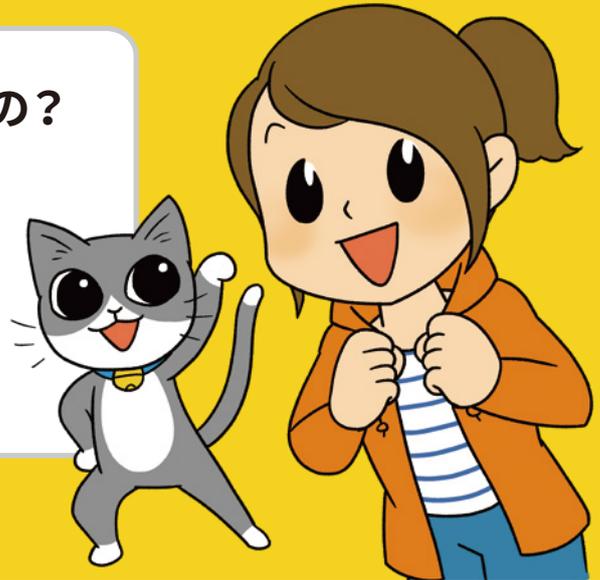


公的年金の意義

公的年金ってなんのためにあるの？
老後の備え？
実は、それだけではないのです。
なぜ公的年金が必要なのか、
その目的と意義をご説明します。



公的年金って、なんのためにあるの？

人生には、いろいろな「もしもの時」があります。病気やけが、死亡など.....

そうした「もしもの時」に備えるため、民間の生命保険や医療保険に加入したり、貯蓄をする方もたくさんいることでしょう。

ですが、その「もしもの時」がいつ訪れるのか、どれだけの期間に及ぶのかは、誰にもわかりません。

すべての人が、あらゆる事態を予測して準備することは困難なのです。

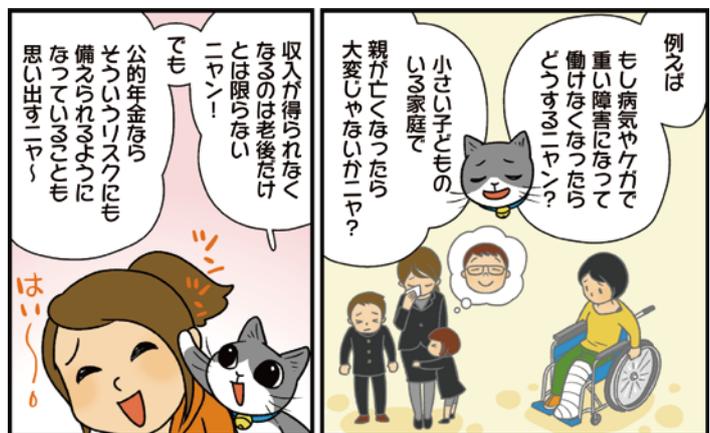
すべての人がこうした事態に備えられるようにしたのが、公的年金です。

+++++

人生のリスク、 想定外のリスクとは

高齢によって働けなくなる以外にも、なんらかの事情で働けなくなったり、それまでの収入がなくなってしまうことは、人生において大きなリスクです。

公的年金では、以下のようなリスクに対応した保障を行っています。



老齢年金

65歳から終身給付を受けることができる年金です。「年金」というと、この老齢年金を指す場合が多いです。



障害年金

加入中、病気やけがなどで一定の障害を負った場合に受給できます。また、20歳前の障害にも対応しています。



遺族年金

年金受給者や被保険者が亡くなった場合、その遺族が受給できる年金です。

なにが違うの？公的年金と貯金

公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、広い意味での保険制度にあたります。老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べ、以下のような特徴があります。



1

生涯にわたって受給できる

自分が何歳まで生きるか、死ぬまでにいくら必要なかは誰にもわかりません。このため、貯金をしていても、生きている間に使い切ってしまうかもしれません。それに対して公的年金は、亡くなるまで受給できる仕組みです。長生きして貯金がなくなったらどうしよう……という心配をせず、安心して暮らしていけるのです。

2

物価変動や賃金上昇など、 経済の変化に比較的強い

物価や賃金が上がると、貯金の価値が目減りしてしまうかもしれません。

公的年金は、そのときの物価や現役世代の賃金などに応じて、どのくらい給付されるかが決まります。

このため、物価が上がるインフレなどに比較的強いと言われています。

価値が目減りとは

たとえば短期間で急な物価の上昇（インフレ）が起こった場合



貯金額で買えるものの量が減ってしまう可能性があります。

3

重度の障害を負った／家計の担い手が 亡くなったときに対応できる

家計の担い手が、突然の事故や病気で障害を負ってしまったり、亡くなるなどしたとき、小さな子どもや配偶者はどうしたらいいでしょう。貯めてきたお金だけでは生活できない場合も考えられます。

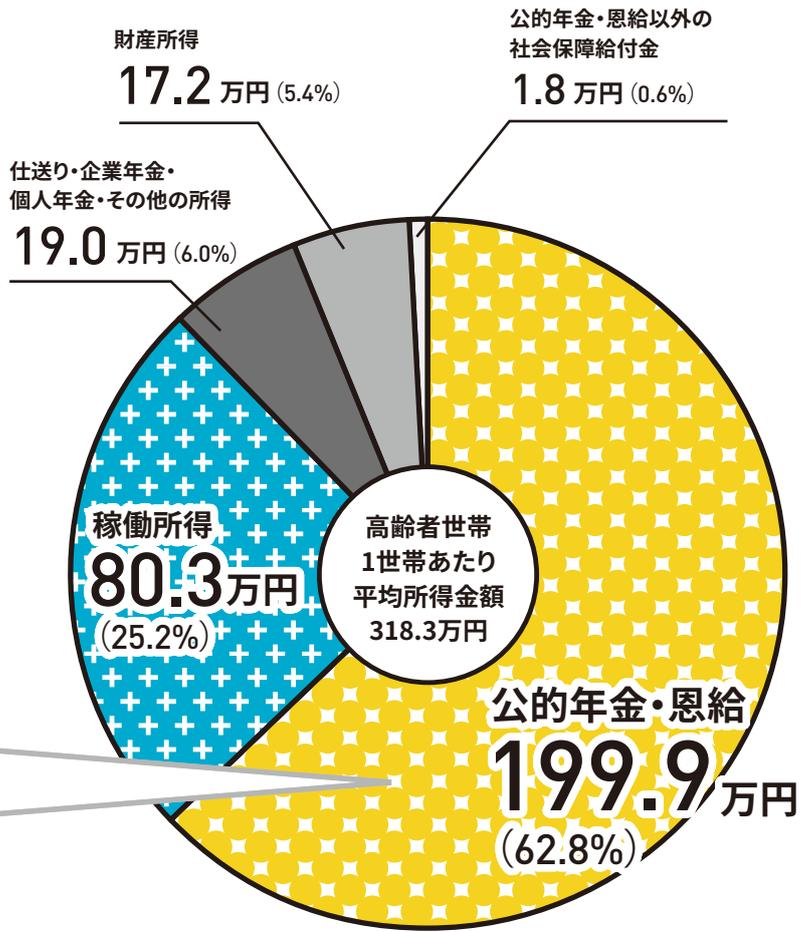
こうした事態に備えるため、公的年金は障害を負った方や遺族への保障も行っています。



公的年金は 多くの方の 生活を 支えています

(資料)2022年国民生活基礎調査(厚生労働省)
(注)四捨五入による端数処理の関係で、内訳の合計が総計の数値と一致しない場合があります。

年金は高齢者
世帯の
収入の **6割**



いっしょに**検証!**公的年金
～年金の仕組みと将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説した
こちらのホームページをご覧ください。
<https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/>



※デバイスによっては読み取れない場合があります

